

科目名	成人・老年看護学実習 I	単位数・ 時間数	2 単位 90 時間	開講年次	2～3 学年
担当講師名	専任教員、実習指導者		実習場所	二戸・久慈病院	
目的	生体機能が急激に変化している対象に対して、生命維持と苦痛の緩和、回復への援助を学ぶ。				
到達目標	1. 急性期にある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解できる 2. 急性期にある対象とその家族の特徴を理解し、心理的支援ができる 3. 生体機能の変化に合わせた観察と判断、評価ができる 4. 合併症、二次的障害を予測し、予防のための援助ができる				
実 習 内 容 ・ 方 法	<p>対象：手術前から術中、術後 3 ～ 5 日までの患者</p> <p>1. 術前看護</p> <p>1) 優先順位を考えて情報収集を行う。</p> <p>2) 術前に必要な検査結果、承諾書、クリニカルパスを実際に見て知る</p> <p>3) 術前に行われている処置・準備について見学し、根拠を明確にする。</p> <p>前投薬、点滴、口腔ケア、弾性ストッキング着用、絶食、中止薬、準備物品等</p> <p>4) 入室前の VS 測定と観察を行い、報告をする。</p> <p>5) 手術室看護師の術前訪問に同行する。</p> <p>6) 入室時の申し送りの見学。</p> <p>2. 帰室時の準備</p> <p>1) 術後ベッドの作成</p> <p>2) 重症個室（帰室する病室）の準備（確認）</p> <p>3. 術中看護</p> <p>1) 術中体位や外回り看護師の役割を知る</p> <p>2) 手術見学をし、術後の看護に活かす</p> <p>3) 帰室時の申し送りの見学</p> <p>4. 術後看護</p> <p>1) 術後合併症のリスクを予測したバイタルサイン測定と観察、アセスメント</p> <p>2) 術後合併症予防と二次的障害を予防するための援助の実施</p> <p>ドレーン管理、フットポンプの着脱、点滴の速度計算、早期離床、PCA 回診見学・介助 褥瘡予防等</p> <p>3) 術後検査と VS 測定や観察結果を合わせたアセスメントと報告</p> <p>手術予定者がいない場合は、生体機能が急激に変化している対象者の生命維持と苦痛の緩和の援助を学ぶ。</p>				
備考	詳細は、実習要綱を参照する				
成績評価方法	実習評価表に基づき評価する				